

『ゴロゴロ通信第73号 2013/04/15 日本ワヤン協会』

この冬はめっぽう寒かった。どうも私だけでなく誰彼と無くそのようだつたようだ。近年の夏の極端な暑さ、キリキリした冬のきびしさ。それらはともあれ地球そのものの都合で私たちのとやこう言えた義理の物ではないのだが、いささか身に応えたのだ。正月が過ぎ、例年のように、ジャワ、バリに出かけた。

バリでは奇しくも男性のレゴン・クラトンを見る機会に恵まれた。ジョクジャでは州政府のマルサット・ウイカ氏と8月のワヤン大会についての打ち合わせ。ソロではキ・マンタブお声掛けの久方ぶりの気楽な昼食会、狩野裕美さん、私たち夫妻を交え、たっぷりしたグラメを囲んでのひと時だつた。そこには塙野茂氏もいた。

なんかしづかな旅だつた。ジャカルタではオランダ時代からの半官半民老舗出版社ライ・プスタカが1年も前にジャカルタの東部に引っ越したという。私もうかつだつたが、その社屋外郭はそのままに内部は黒々とがらんどうのようだつた。どんなにかこの出版社のお世話になつたか。ここで得た多くのワヤン関係ジャワ文学関係書籍のいかに芳醇なものであつたか。

多くの絶版書籍のコピーに応じてくれた編集者のおもかげが去來した。暮れなずむジャカルタの街の片隅で、時代の移りゆくすがたにしばし茫然としたのだった。悲しいね。

かなしいといえば、ジョクジャの老舗ワヤンの女主人が半身不自由なまま店に立つていたことだ。その父君ムルヨスハルジョ氏の時代からずいぶん素敵なワヤンを手に入れさせてもらつた。いまはこの店も外国人、ことに日本からの観光客の到来もずいぶん少くなつたことだろう。彼女のご健康を祈るばかりだ。

ここでは8月のワヤン大会についてわかっている範囲を『報告』しよう。

ジョクジャ特別州政府主催 第2回ワヤン大会（会場一未定）

kongres pewayangan dan pentas wayang tahun 2013

2013/08/22～24

招聘＝日本ワヤン協会上演 8月23日（金）午後8時開演

演目＝まぼろしの城をめぐす（脚本・演出＝松本亮）

つこでにこの後の予定を（不確定要素多々あり）するすと、

9月1日～8日の間ジャカルタで開催されるつぎのワヤン大会から先日公式招待状を得た。

world puppet carnival 2013（大会事務局はチエコのプラハ）

話が順調にいけば、9月3日までに、ジャカルタで「まぼろしの城をめぐす」の上演がある。

たまたま昨年のこの大会（会場はカザフスタン）に単身参加したYUKI氏の報告があり、本号次ページに収録した。彼女は本協会のダランである。

9月21日（土）東京家政大学博物館主催。演目＝「プラン・チャキル」+「天人の羽衣」

9月28日（土）有田道子＆ジュヌファム主催。演目ほか未定

10月5日（土）女子美術大学主催。ワヤン講演+ワヤン上演。演目ほか未定

11月9日（土）日暮里サニーホール。演目＝「海が見たい」

これは私事だが、2月中旬インドネシアから帰つたとたん倒れ、救急車で病院に運ばれ

た。卓越の専門医先生の手に救われたと思う。2週間の入院を要し、なお静養の日々だつたが、

この間多くの方々のお世話になつた。厚くお礼申し上げます。（松本亮）

ワールド・ペベット・カーニバル2012 参加報告 / YUKI☆

9月23日～30日 アルマティ市（カザフスタン）

上演参加：24ヶ国32作品 * フィルム参加：13ヶ国23作品

ちょうど一年前（2012年3月）に「客席ひとつの人形劇場 ぴぴ☆しあたー」という、お客様と1対1で公演をする木彫りの糸操り人形のちいさな作品を創りました。世界人形劇カーニバル2012の参加作品募集に応募したところ、ノミネートされましたという連絡が！正式招待作品＝賞にノミネートという形になり、最終的には50ヶ国近くから350前後の応募があったそうです。招聘の連絡に右も左もわからないまま大使館にビザの申請に行き、ひとり演具を担いで出掛けました。開催地のアルマティ市は学園都市。カザフスタン民族大学の学生達がボランティア通訳として感心するほどよく働いてくれました。音楽学校のホールを会場として使用したり、芸術学校の授業中にフィルム参加の人形アニメが上映され、学生たちが意見を述べていたのも興味深い光景でした。全ての公演が観られるように組れたタイム・スケジュールのおかげで殆どの作品を堪能。私の作品はニーシアター（シアター・フォー・ワンやピーピング・シアターと呼ばれているジャンル）だったので、公園や街角、ホテルのロビーなどで1対1で上演（1回3分）。人形劇なんて観るつもりのなかった通りすがりの人達延べ145名に「あなたの為の上演時間」を体感して頂きました。ハプニングやトラブルももちろん沢山あったけれど、世界情勢の危うい中、24ヶ国の人々が毎日笑顔で握手を交わしている姿は何よりの糧となりました。最終日の授賞式で大賞を受賞したのはロシアの劇団。舞台いっぱいの装置、客席には飛行船が飛び、出演俳優は10名近くいたのでは？という大きな作品（ジャンルはマリオネット）で、賞金10,000ドル（ちょっと前なら100万円）をゲット！

この授賞式で、私にとって忘れられない出来事がありました。壇上の司会者から「各賞の発表の前に」と特別賞の設定と共に名前を呼ばれました。「作品的にはあてはまるカテゴリーがなかったけれど審査員の評価がとても高かったので、今回特別に審査員特別賞を設定することにしました。」との事で、予定にはない賞だったそうです。あまりのサプライズに足はがくがく、涙ぼろぼろ、壇上から客席へ戻ったら、他の人形遣いの方達が立ちあがって名前を呼びながら拍手で迎えて下さったことが最高のおみやげとなりました。



ジャカルタのワヤーム「アビマニュの戦死」。タイの若者達の影絵作品も素敵でした。



カザフスタンの
こどもたちと。



並んでくれてありがとう。
ぴぴ☆しあたー上演中！



ホセ(ペルー)&レイチェル
(英国)&シルビア(ドイツ)
皆ひとりでやってきた
ソロ・パフォーマー達。

2013年の世界人形劇カーニバルは9月1日～8日の8日間に渡り、ジャカルタとパリにおいて「世界人形演劇ワヤン・カーニバル」としてPEPADI（インドネシア・ダラン協会）とインドネシア政府の共催により開催されます。グランプリ・ワヤン賞には10,000US\$の賞金、その他にも男優・女優・演出・人形デザイン・舞台美術・人形映画・人形アニメ・人形ビデオ・オリジナル作品・児童人形劇・芸術的創造などの各優秀賞がおくられます。昨年末にご招待（ノミネート）のお知らせを頂きましたが、残念ながら同じ日程でデンマークのフェスティバルに招聘されている為、今年は参加することができません。挑戦してみたい！という方、一般応募の締切りは3月15日、プラハ（チェコ）にある大会事務局が審査機関となります。